

令和4年度「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議
西部地域会議」議事録

	構成員（出席者）	発言内容
1	静岡県保育士会 鈴木西部支部長	<p>主に結婚、出産、子育てというところの分野からご意見させていただきます。</p> <p>まず合計特殊出生率の目指すべき方向性として掲げられています。全国的な人口減少も含めて、これは今後一気に増加するのは数字的には難しいのかなというところが率直な意見です。</p> <p>子育てに関しましては、やはり身近にいる親子さんを見ると、やはり安心して産み育てることができる環境、地域を含めた仕組み作りが必要かなと感じます。</p> <p>皆さんもご存知のように一昨年、子供の命を守る現場で中部地区ではバスの子供の置き去り事件、東部地区では虐待の事件等で現場が胸を痛めるような事件がおきました。改めて子供を中心において、周りの安全安心というところを再認識しなければいけないなと思っているところです。</p> <p>やはり安心して産み育てることができる地域や、人、資金が大事になっていくんじゃないかなと思います。</p> <p>今後大きくなっていく子供たちの問題としては、貧困問題や医療的ケアの問題が様々な家庭問題としてこれから地域の人口減少とかにも重なっていくところもあるのではないかなと思います。</p> <p>その中で、何か特徴がある施策がもう少し出てくるといいかなと思います。 例えば、西部地域においては男性育児休業の取得率が一番だとか、子育てに対して魅力のあるアピールがもっとあるといいと思います。</p> <p>デジタル活用に関しましては、災害が起きたときに特に子供の医療的ケアの問題とか貧困問題家庭について、遠隔操作でケアができるとかそういった方向でも考えていけたらいいかなと思います。</p>
2	聖隷福祉事業団 青木理事長	<p>デジタルを活用した課題解決というと、大阪の急性期の総合医療センターがサイバー攻撃で業務が止まるという、非常に大きな影響を及ぼした社会的な問題がありました。</p> <p>実際、我々の法人でも1日当たり1万回ぐらいのサイバー攻撃があるわけがございます。今のところはそういうものに関係した情報はありませんけれども、いつどこで同じよ</p>

		<p>うなことが起きるかわからない。 ある程度大きな組織でセキュリティ専門分野の担当職員を持った法人はいいと思いますが、中小の医院や行政もそうですけれども、専門の方がいらっしゃるのところではどうしていいかわからないっていうのが現状です。 そのままデータが無くなってしまって、医療福祉の事業に大きな影響を持つところが、非常に現場の中では起きているんじゃないかなと思っております。 表には出てこないものですからわかりませんが、ランサムウェアなどで攻撃をすればしたら、そのような脆弱な企業、さらには診療所、病院を狙ってくると思われま。そういうところをこれから県民の安全安心を考えてどうやって対処して行ったらいいのかっていうことを、県を中心に、考えていただきたいし、そのKPI項目の中に何かしらセキュリティの基準を入れていただきたいと思います。</p> <p>もう一つは、ダイバーシティ。誰もが参加できる社会ということで、その中には障害者の方もいらっしゃいます。障害の方っていうのはもうその個人個人によってレベルも違いますし、障害の種類もすごく違ってきます。 その人たちの仕事を探すときに、非常に難しい問題が起きて、たった一つの企業だけじゃとても対応できないような状況がありました。ぜひともいろんな企業がうちではこういう成功体験があったということを出していただいて、そうした事例を参考に広く雇用できるような状況を作り出していきたいなと思いますし、県の皆様にもお願いしたいなと思います。</p>
3	浜松商工会議所 山畑副会頭	<p>静岡県の出生率はですね、特に第1子、全国と比べて低いっていうのは何故かなと思って、もう少しここをですね深掘りしていろいろ分析していただくともっと課題が見えてくるんじゃないかなというふうに思います。 ご指摘のようにですね、人口とはものすごく大きな要素だと思ってまして、いかに人口を減らさないかという努力が必要でそういう意味ではそのいろんな取り組みをやってるのは非常に評価ができるというふうに思います。</p> <p>この中で私はずいぶん前から言ってるんですけども、やっぱりこの静岡県っていうのはすごく住みやすい環境に恵まれた地域なんですね。 首都圏からも近いですし大阪とのちょうど中間ということと、その中で自然の豊かであったり、医療が充実していったり、学校が充実してたりとかですね、非常に住みやすい、英語で言うところですね、クオリティーオブライフが高い地域だと思っています。 その中で、オンラインで仕事ができるようになって在宅で</p>

		<p>の仕事ができるようになって、ここ数年で環境が本当に大きく変わりましたので、そういう意味では先ほどもお話が少し出てましたけども、この首都圏ですらね、もっとそういう人をアピールするっていうことで移住を促すことは非常にいい施策になるんじゃないかなというふうに思っています。</p> <p>もう一点は、非常に長い目で見ると、この人口減少というのは、静岡だけの問題じゃなくて日本全体の問題なんですけども、やっぱり外国人をどう取り入れていくかっていうことで、受け入れていくかってことを本当に真剣に考えないとね、立ちゆかなくなっていくということですよ。</p> <p>国の明確な政策が出てないで静岡県だけで取組みが難しい面もあるかもしれませんが、外国人が安心して働けるような環境をどういうふうにつけていくのか。</p> <p>例えば静岡県でインターナショナルスクールがないから、それだけでも我々はハンディキャップだと思ってますし、それから災害への対応とか、やられてると思いますけども、外国人が住みやすい地域まち作りをしていくっていうのもですね、一つの要素ではないでしょうか。</p> <p>あとDXに関しては、DXの議論をするには、まずこの紙を何とかしたらどうですかということをお願いしたいと思います。私は企業に属しておりますけれども、社内では一切紙はないです。なんか10年分ぐらいの紙をもらったなという感じはしてるんですけども。そこが第一歩じゃないかなという気がしております。</p>
4	磐田商工会議所 鈴木会頭	<p>県内に商工会議所15箇所あるわけですけども、商工会議所のいろんな会合がある中で、県中遠は非常に産業構成もいいですし、大学は三つも存在します。</p> <p>それにも関わらず、女性の県外就職が多いとか、大学生の6割しか地元に残らないというのは問題であると思っています。</p> <p>磐田商工会議所も各大学の学長さんを集めたパネルディスカッションなどを通じて、学生が卒業後に遠州地域へぜひ留まって欲しいというふうなことを思っております。</p> <p>その中でもこの辺の産業フェアのほか、ヤマハさんをはじめいろいろ大手企業もたくさんありますから、いろんな研究開発部門の方々を講師にして、企業懇話会もやっているわけですけど、こういうことを続けてやって、もう少しマッチングの手助けができればいいかなというふうには思っています。</p> <p>あと商工会議所といたしましては、いわゆる伴走型、寄り添うような支援をしていこうということで、だいぶ支援の仕方も変わってきております。</p> <p>特にコロナの特別融資の元金の返済が始まります。しっか</p>

		<p>りした支援ができる体制を作らなきゃいけないと思います。</p> <p>スポーツについても、サッカーのボニータやラグビーのブルーレヴズもあります。</p> <p>スポーツを通じて、地域の活性化を支援していきたいと思っています。</p>
5	<p>浜名漁協事業協同組合 渥美代表理事組合長</p>	<p>漁業の状況は、特に浜名湖のアサリが非常に不振になりまして、アサリの不漁が漁業収入の減少、それを補うために、アルバイトをすることで、その土地から出るほどまでにはいかないんだけど、漁業から手を引くということは往々にして起こっております。</p> <p>アサリ漁を中心とした浜名湖の漁業が危機になれば、連鎖反应的に、例えばシラス船の従業員が、アサリの収入がないと、シラス漁だけではとても生活できないですからその分、アルバイトをすることでどんどん漁業から抜けていくことになってしまいます。</p> <p>それから、水産物の価格っていうのが頭打ちで、風上の漁業者を元としますと、流通の過程を経るごとに、最終的には市場価値は、普通のスーパーで4倍とか5倍になるわけですね。</p> <p>それが飲食業に行くときにさらに10倍ぐらいになる。その元となる漁業者の収入は減る一方で、途中の流通経費の方が人件費の増加上昇等に伴いながら、あるいはいろいろな諸経費の上昇で、そのしわ寄せが漁業者に来てしまっている。だから、スーパーでもよく言われるんだけど、販売価格を含めて、それから仕入れ値が決まってくる。</p> <p>そういった状況で、特に浜名湖の舞阪地区なんかはもう古い漁師町でして、もう厳然と取る人と買う人、売る人が全部違う。</p> <p>地元では逆にですね、ほとんどの魚はほとんど浜松地区にはないという状態で、流通業者までは儲かるのだけれども、他の業者さんの手取り分は少ない。</p> <p>さらにそれが首都圏に行っちゃうことによって、なかなか地元の人も地域の魅力ある水産物が食べられない。そういった現状にあります。</p> <p>観光業にはかろうじて流れる部分はありますけれども、これだけの大きな都市浜松、それから磐田、この人口の多いところで、水産物の流通を少し変えれば、ひょっとしたら大きな産業になるのかなと思います。漁業者の収入を上げるってことがとりあえず今の私の方の最大の命題です。</p> <p>資源を開発するってのはなかなか難しい中で、それを高めながら、今後、物を高く売るっていうことをだんだん本格的に考えなければならぬ。</p> <p>漁業者がいなくなれば漁協も潰れますけれど、それ以上ですね、例えばアサリがかつて平均10億円以上あったんで</p>

		<p>すが、ひょっとしたらこの地域全体で考えると10倍ぐらいの経済価値がある。</p> <p>原料がなくなればその加工業、流通業もいなくなっても経済効果のマイナスは少ないのかもしれませんが、やはりこの地区に住みたいという人も魅力の一つとして、重要だと思っています。</p> <p>これからそういった意味で地域活性化を例えば漁業も同じように抱えるのかなとは思っています。</p> <p>それから一つ、漁業の違うところはですね、畑と違って、働くところは海上でやっています。</p> <p>漁業のルールは、漁業法であったり県の規則、様々なものがありますけれどもただ規則自体がかなり昔の規則や法律でできています。今のこの漁業者が減っている現在の状況にはどうも合ってなくて、何かやりたいけれども制約があってできないってのは往々にしてあります。ルールのミスマッチもかなりある。</p> <p>そういう点でも、魚が残るけど漁業者がいなくなるという恐れもあるので、そういったことも県当局には考えていただければということ働きかけはしております。</p> <p>国の方ではデジタルで漁獲量をコントロールすると、市場の水揚げをすぐに集計して、どのぐらい取るのか枠を決めて、取り方を決めるっていうそういった流れに今どんどん変わってきております。資源を国が管理するというやり方です。</p> <p>そうするととりあえず現状不漁だったものがさらに漁獲量を減らされる恐れがありますが、最終的に資源が回復すれば問題ないわけです。</p> <p>デジタル化も、現場サイドで導入しても、データ入力を自動でなくて手打ちでやっています。実のあるデジタル化にするためにはまだまだ施設とかいろいろ整備の必要な部分が非常に多いのかと思います。</p>
6	<p>静岡銀行 西部カンパニー 常務執行役員 伊藤西部カンパニー長 (加藤理事部長)</p>	<p>静岡県は産業的にも豊かですし、住みやすい地域だと思います。</p> <p>その中でこれだけの人口減少、とくに20代の女性というところを見ますと、転出超過で地元に戻って来ないといいますが、将来的に人口の減少にも拍車をかけている本当にゆしき問題だというふうに認識をしています。</p> <p>その中で対策としてはやっぱりサービス業の誘致ですとか、あるいはスタートアップ企業を育てるとか、そういったことで働く場が県内でできるというそういった動きがあるのは承知しておりますけれども、なかなかこういった状況の中でいわゆるコロナ禍の状況の中でそういった誘致ってのはうまくいってるケースは全国的にもそれほど多くはないというのが現状だと思います。</p> <p>一方で、今東京の方でも働き方がだいぶ変わってきてまし</p>

		<p>て、リモートワークがかなり進んできています。現状ではリモートワーク自体かなり認められた働き方になっております。このリモートワークを求めている東京の企業は、相応程度あると思います。その中で優秀な人材を確保できるということであれば、東京の企業だとしても、かなり歓迎できるのではないかと思います。</p> <p>サービス産業の誘致というものが、あまり加速度的に進むような状況ではない中で、我々がやっていくのは逆転の発想で東京のリモートワークを地元で求める企業っていうのを我々がワンストップで集約をして、それを学生に提供していく。</p> <p>そのような取組み自体も、今の状況では十分考えられるのではないかなと思います。</p> <p>そういった柔軟な発想で、特にこの20代の転出超過は、デジタル化とかいろんな取り組みがあるわけですが、一つ一つやって、できるだけ転出を防いでいくということが必要になってくるんじゃないかなと思います。今の時代を捉えた取り組みをさらに強化していきます。</p>
7	スルガ銀行 営業本部 法人コ ンサルティング室 仲田部長	<p>戦略2の人材確保についてです。</p> <p>県内で就職したいという学生は8割ほどいることから、大学等の就職支援協定の推進や県内企業と連携し、企業のアピール発信が必要であり、学生に地元の認識をしていただけないのではないかと思います。</p> <p>静岡県は首都圏から近いので他地域に比べれば有利である所もございます。</p> <p>あと金融機関として戦略2、魅力ある雇用というところの企業の創業、成長、事業承継のライフサイクルにおいて、金融機関が一番身近でありますので地域事業者へアプローチしてお客様のニーズや課題を把握したうえで、取り組んで参りたいと思います。事業承継については、静岡県事業承継・引継ぎ支援センターもございますので、そちらとも連携しながら対応していきます。</p> <p>また外国人材の紹介を業とする企業との連携をさせていただいておりますので地域事業者へ提案し、高度外国人の紹介をして参りたいと思います。</p>
8	清水銀行 大畑執行委員 西部地区駐在	<p>全体像としまして、やはりコロナ下でいろいろ想定外の多い中でございます。</p> <p>先ほど評価もございましたように、私自身も概ね堅調に推移しているというものと思っております。</p> <p>また進捗が劣後している項目につきましても、後ろの方にありますように、個別に今後のアクションプランまで明確になっておりますので、この状況については引き続き進捗を確認したいなというふうに思っています。</p> <p>その一方で、コロナ下において影響を受けてる項目では、もう一度その項目自体が正しいのかどうか、また新しい施策</p>

		<p>が必要ではないかというところの観点も入れていったらいいのかなというふうに思います。</p> <p>特にその中で金融機関、今求められてるとというのは、グリーン、デジタル、スタートアップ、イノベーションの4つの項目のキーワードは今大変よく聞くようになっております。金融機関としては人の流通、産業の活性化、雇用の創出のために、そういう部分について、力を入れていきます。特にスタートアップの部分については、制度融資などの、それぞれ対応する制度も、今は静岡県もだいぶ充実しておりますけれどもこれからコロナ下からの脱出を図るために、リソースも強化されていったらありがたいなと思います。</p> <p>金融機関という部分については、積極的に、ソリューションの部分でございますが、取り組んでいきたいと考えております。</p>
9	<p>浜松いわた信用金庫 高柳理事長 (渡瀬ソリューション支援部 新産業創造室長)</p>	<p>静岡県では、今回の総合戦略で、様々な施策が展開されておりますけれども、人口減少が進んでることは残念だなと思っております。</p> <p>自然減が年々増加しているというのは日本全体の問題でもありまして、出生率などに関する施策がなかなか結果を出しにくいという面があると思います。</p> <p>ただやはり社会増については、地域における町づくりという面もありますので、しっかりと取り組んでいただければと思います。</p> <p>例えば首都圏になりますけれども、流山市というところがかなり人口が増えてるというのを聞いております。</p> <p>ここ15年で約5万人増えてるような状況でございますが、そこでは「母になるなら流山市、父になるなら流山市」という強烈なインパクトを持って、ブランディングをしっかりと立てて進めているというところが一つポイントなんだと思っております。</p> <p>様々な政策をしっかりとやられてるところはいいですけども、それを総合的に連携させてブランディングしてしっかりとしたインパクトを出していくという必要があるのではと思っております。</p> <p>また人口減少の要因分析でやってみたい仕事や給与水準の高い仕事がないというのもなかなか難しい問題で、ICTであるとかデザイン系のサービスを誘致するというのが重要だと思いますが、先ほどありましたように、この地域はすごく活力があるんだということをしっかりと若者に対して訴えていく必要があるんじゃないかなと思っております</p> <p>当金庫としても ZAZA の地下に FUSE を運営して、中小企業の新規事業展開やスタートアップ支援を進めておりますけれども、県でもこの3月には、静岡市に支援拠点を作られると伺っております。</p>

		<p>また静岡市の方では、スタートアップ支援の関係ではテックビートという展開がありますが、この西部地域においてもそれに匹敵するようなものを検討していただければと思っております。</p> <p>やはり若者にとって魅力のあるまちということで、今後の次世代に向けた支援を進めていく必要があると思います。そういった中では、小中高校生を対象としたプログラミングコンテストをしっかりと展開されていることはすごく良い点かなと思っております。</p> <p>またDXについての取り組みですけれども、弊庫もITサポートセンターという組織で、中小企業の方々の支援をさせていただいております。例えば、勤怠業務システムを導入することによって、エクセル入力作業をかなり軽減できたとか、あとパッケージソフト導入で、ペーパーレス化になって電子決裁を始めるといったことができたなど、そういった方が結構たくさんいらっしゃいます。</p> <p>この為、DX化を進めていく上でICTの補助金を継続して、こういった方々に対しての支援がまだまだ必要だと思っております。</p>
10	<p>遠州信用金庫 守田理事長 (秋元業務執行役員)</p>	<p>実は私、遠州信用金庫のプロパー職員ではなくて、3年前に業界の中央機関である信金中央金庫というところから出向という形で来ております。</p> <p>その中で縁もゆかりもなかった浜松ですが、非常に特産品が多いということは感じている反面、特産品が多いがゆえに特徴を出していかないと、なかなか尖ったものがない。</p> <p>それは、パッケージもそうですけれども、プロモーションですとかそういった活動も力を入れていかないといけないと感じているところです。</p> <p>そういった中で、今日もご出席いただいている湖西市さんと連携をさせていただいて、湖西市内の地元の商店さんのデジタル化を促進していこうということで、湖西市さんと一緒に、タブレットを無償で配布をするお手伝いをさせていただきました。</p> <p>タブレットは配るだけではなくて、これからのキャッシュレスそれからあと、先ほど申し上げたプロモーション、SNSといったものを地域の商店さんが活用できるような取り組みというのを、今進めさせていただいております。</p> <p>それからこういった取り組みをやっているとですね、いろんなシステム会社さんから、パイロット的なスモールスタートな実証実験みたいなことをやらして欲しいというような声がかかってきます。</p> <p>例えば先ほどの、高齢者のデジタルデバインド解消の試みの中で、タブレットを使って遠隔でいろんなことができるという、実証実験もさせていただきます。</p>

		<p>地域の皆様のデジタル化を推進していくためにも、社内のデジタル化を積極的に進めておりました、RPAを使った業務効率化というのを進めさせていただいています。RPAとかデジタル化に限らず、地元の静岡大学と、浜松学院大学、この辺りの学生さんをインターンシップとして受け入れたり、取引先さんの企業さんにご案内をすることで、地元への定着ですとか若い力の活用というのをさせていただいています。</p>
11	<p>島田掛川信用金庫 伊藤理事長 (鈴木地方創生部長)</p>	<p>デジタルを活用した課題解決について、お話しをさせていただきたいと思います。</p> <p>弊金庫の取引先は、ほとんどが中小企業です。中小企業においては、デジタル化の活用と言っても、「何から手をつけていいかわからない。」というお客様が大半です。ある意味、課題がわからない事が課題というような状況です。</p> <p>そうした中で、現在、市町の行政や商工会議所・商工会とも連携させていただいて、デジタル支援プロジェクトを実施している最中です。</p> <p>その内容としましては、中小企業庁の「みらデジ経営チェック」を活用させていただいて、デジタル化の課題をまず可視化して、課題がわかったところで、対策を図っていきましょうというものです。</p> <p>市町や商工会議所・商工会と信用金庫が連携する趣旨としまして、金融機関は、課題解決に向けた設備投資への融資支援は可能です。</p> <p>しかし、地域課題が明確になった際に、補助金制度の作成など金融機関では、できない部分がございます。そこを補っていただくために行政と連携して取り組んでおります。</p> <p>引き続き行政や商工会議所・商工会と連携して、地元中小企業を盛り立てていきたいと考えておりますので、ご協力ご支援をお願いしたいと思います。</p>
12	<p>連合静岡中遠地域協議会 永井議長</p>	<p>企業の労働組合の集まりからなっている組織です。よろしくお願ひします。</p> <p>先日の新聞を見て思ったんですがこの人口減少のところで、静岡県全体では、減少しているとわかったんですが、各市町のところはばらつきがあります。</p> <p>増加してる所も多くてですね、行政によって個々で取り組んでることが今功を奏しているところもあります。このデータのトップ3とか、上位のところですね、できたことを洗い出して、先ほど報告の中にありました主な現状と重点課題がありますが、その部分がしっかり裏付けがとれているかをいま一度検証して、資料の裏付けを取った方がいいと感じました。</p>

		<p>あと私達のところは労働組合の集まりですので、その中で声が上がっているところを少し紹介させていただきます。若者、子育ての支援ですが、先ほどひとり親の支援がありましたが、全体的に言うと生活困窮者のところが社会問題となっています。</p> <p>生活困窮者の方々は日々の暮らしが苦しいというところで、結婚とかですね、そういう機会もなかなかチャンスに恵まれず、先のことは見通せないという部分もありますので、生活困窮者の支援という視点を入れた方がいいと思います。</p> <p>あともう一点ですが、戦略5の「時代に合った地域づくり」のところで、外国人の方々、外国人労働者の方々が、非常に多く静岡県に入ってると思います。</p> <p>やはり一番大きく問題になってるのが言葉の壁です。各企業で雇用したうえで、仕事をしながら日本語の教育ができればいいんですが、なかなか仕事をやりながらその事業で教育するのは難しいので、静岡県全体です、何かしらの就業する前に日本語研修支援のサポートがあれば、もう少し静岡県に外国人労働者の方が来ていただけるのだと思います。</p>
13	静岡産業大学 小泉教授	<p>今日の議題である評価につきましては、全体として概ね進んでいるということであり、また、課題についても解決策について検討されてるということで、非常に頑張っていると思います。</p> <p>先ほどから話題になっている人口の問題、特に若者の流出対策や若者の定着にあたって就職先の問題についてです。私は、全国の地域の地域再生を頼まれて、北海道から沖縄まで行っていますが、静岡県は産業があつていいとこだなと実感します。この西部地域でも、産業面では十分な経済規模があります。ただし静岡県の特性としては、製造業の比率が高いので、サービス業の比率が低いです。サービス業の比率が低いということは女性、特に大卒の女性の雇用先が、他県に比べると当然減ります。それがずっと積み重なってきます。昔は、製造現場に若い女性が相当数いましたが今は少ないです。産業構造は急に変わらないので、各企業におかれては、男性の職場だと思い込んでるところをいかに女性の職場に変えていくかということが重要となります。</p> <p>働き方の問題もございますが、女性のトイレが和式ですと、女性の声が会社に届いていないのではないかと感じます。女子学生には就職活動で女性トイレを見るように言っています。県や市の庁舎でも同じ問題があると思います。</p> <p>最も人口増が注目されてる長泉町では、昨年、平成の長泉町史を私が監修して編纂しました。長泉町の中学生と小学生が平成元年は全部で4200人でしたが、平成の13年頃は1000</p>

		<p>人減って 3200 人になりました。その後、他の市町村は、そのまま児童数。生徒数が減り続けてるんですが、長泉町はそれからV字回復して、令和には 4000 人台に戻りました。その要因に私は一番関心を持ちました。子育て施策が先行して行われたという点もありますが、長泉町の周辺の県東部地域にはサービス系の産業も含めて就職先があることが、まず要因としてあります。一番効いたのは実は都市基盤整備で居住環境を 20 年以上かけて整備した、その効果が非常に出ています。</p> <p>静岡県の市町の人流を見ると一旦地元に戻ってきても、結婚するときまた動きます。居住環境、都市基盤的なところも含めて、やはり若い世代が住もうかなってという都市の居住環境や子供を育てるのにいい教育環境が必要だと思います。</p> <p>私、国の外郭の地域総合整備財団の地域再生アドバイザーということで全国回っております。政策を実際に進めていく段階で、それなりのノウハウがある人材を、役所がある程度資金を出して、地元のアドバイザーやコーディネーターとして入れるということで、成功しています。例えば湖西市でも BaaS に取り組んでおられますけど、都市交通では山口市が専門人材を市の予算で地域に派遣して成果を出しています。その道のプロを活用するために行政が人件費を持つことが必要です。</p> <p>デジタル化の関係は、先ほどご説明聞いて大体安心したんですけども、デジタル化は専門の担当課がメインでやる時代ではなく、全庁的に各種の政策の中で取り組む時代だと思います。北海道の北見市が 10 年がかりでやっていますが投資が必要です。市町村単位で別々にやった方がいいものと、ある程度共同化してやった方がいいものがあります。市町があらかじめ話し合って、実証実験的にどこかの市町でやって、その成果を他の市町も活用するような手法も必要かと思えます。</p>
14	遠州観光ネットワーク 村田会長 (栗林事務局長)	評価書の中で、バイ・シズオカをはじめとする状況をチェックのメンバーアンケート結果で、それ自体を知らなかったっていうのが 40.8%という結果というのがありました。我々そういったものに従事してますので、皆様ご存知だと思っていたので、これだけの方が知らないというアンケートを書かれていたので、20%の方はやり方がわからなかったと書かれてました。 <p>やり方がわからないとか、知らなかったというところがデジタルの活用というところで、置いてかれてる方がたくさんいらっしゃるというところだと思います。そういったところをどうしていくかということを考える必要があると思われまます。</p>

		<p>それから国の方で全国旅行割やられている中で、ある宿泊施設の話をする、延長については勘弁してほしいというような声がありました。</p> <p>単に安くなるのだろうと、中途半端な知識を持って宿泊に来られると、接種証明だとかそういったことも細かいこともわからないままに来てしまう方を、従業員を総動員して休みを返上して大変な思いをして対応したので苦労されているという悲痛な声をいただいたりしております。</p> <p>受け入れる側の施設や、観光施設、そういったところの声とかを反映していただく中で支援をやっていただくことで、おもてなしのサービスを受ける側がですね、その方が地元の良いを再発見して、大きな部分が繋がってくるんじゃないかなというところもあると思います。</p>
15	静岡文化芸術大学 学生 橋本	<p>重要課題1の若者女性の雇用の受け皿作りというところで考えていただいてくださると感じております。</p> <p>本学は主に静岡県、愛知県の学生が多いですが、実は北海道から沖縄まで全国の学生が集う学び舎でもあります。</p> <p>友人の就職先を聞くと、本学はデザイン学部がありますが、やはりデザインの仕事となると、首都圏に行くという学生が多いように感じます。これは私の体感で根拠的なものは学校の方に多分あると思います。</p> <p>せっかく来てくれた県外の人材を逃してるといってはすごく惜しいことをしてるんじゃないかというふうに思います。浜松は地元より住みやすいというのは友人から聞きますが、だからといって浜松に就職……とはらないのが現実だと感じております。</p> <p>もちろん、県外・市外からきて浜松で就職という人も少なからずいると思うので、そういった人たちになぜ浜松で就職したのかを聞くとまた発見があるのかなとも思います。</p> <p>私もせっかくだから静岡に就職してほしい、卒業してから遊びたいなという気持ちがあるので、どうしたらここに戻ってくれるのか、静岡への愛着心が大学在学中の4年間で作れるかどうかというところが大事なのかなというふうに感じています。</p> <p>本学では静岡学という、県内の様々な取り組み方、例えば商店街の会長さんとか、観光関係者とかもいらっちゃって、話をしてくださる講義があります。すごい面白い授業です。しかし、座学だけの授業ですので、それだけで愛着が湧くかどうかってちょっと難しいところがあると思っています。興味を持ってもらうためにはどうすればいいかと考えると大人と一緒に何か協働して活動するということなのかなと思っています。</p> <p>私自身、ずっと浜松在住だったんですけども高校時代に地元のお菓子企業の方と、協力をしてオリジナルのお菓子を作らせてもらったり、大学時代も市役所の方と協力してゴ</p>

		<p>ミ減量対策をさせていただきました。 私もここで働きたいとか、ここに残ってこの人と仕事が出来てみたいというふうに思ってもらえるような機会を作ることがすごく大事なのかなと考えております。</p> <p>県内にいる学生を流出させないという点では、高校生や大学生になってから対策を作るのではなく、小学校中学校からこういうものが有名なんであるとかこういう仕事があるんだよってという郷土教育の計画とか事業が必要なのではないかなというふうに考えています。</p>
16	静岡理工科大学 学生 山本	<p>理系の大学に在籍しているというところで、製造業についてお話をさせていただきます。 静岡県はもの作りの県と言われてまして、今後も発展していくと考えています。 そのため、今後は今よりも幅広く、現在に合った方法で展開していくことが重要であると考えています。</p> <p>まず幅広くということですが、少しでも若者の女性に、静岡が就職先として選ばれるため、食品や医薬品と化粧品など女性の興味・関心の高い分野の企業が静岡県内にもたくさんあるというのを発信していくべきだと考えます。</p> <p>つぎに宣伝としては、高校や大学生になってから、企業の方が大体私達にインターンシップがありますよとか宣伝してくれてると思いますが、進学先を選ぶにあたって、こういう職業に就きたいから志望するということも多いと思います。 中学のときから年に数回ある集会などで、企業の方が直接来られるのは難しいかと思いますが、先生方から、いくつかこういう進路の候補があるよっていう働きかけをして静岡の企業に関心を持っていただくということが重要だと考えています。</p> <p>その次に、現在にあった方法っていうところでは、私は情報についてあまり詳しくないんですけども、国際的に見て日本はデジタル化が遅れている状況で、情報システム開発が遅れが生じていた、開発が後回しにされていたと聞いたことがあります。 そのため、今からは、AIやICT人材の確保を、国内だけでなく、そこで働いている海外の人にも入ってもらおう。日本は遅れてると思うんですけども、環境負荷として減らすことで、経済が豊かになったり、日本経済が世界情勢の影響を受けにくくなると思いました。</p> <p>最後になりますが、この評価書のところでAI・ICT人材の教育を推進していて、すごい評価も良くなってると思うんですけども、それに加えて、義務教育とか高校生のときの英会話教育も重要であると考えています。</p>

17	農林環境専門職大学 学生 沖	<p>農業系の大学ということで、私は農業方面の意見を述べさせていただきますと思います。</p> <p>今回私が気になったことは、農業のスマート化についてです。</p> <p>結論から先に話しますと、スマート化について消費者側にも理解してもらう必要があるということです。</p> <p>資料1の方にもあったICTやドローンを使った作業であったり、資料43ページ以降にもある通り、農業が単に農作物を作るという仕事ではなく、様々な先端技術や開発をおこなう、技術者として成り立っていると変わってきていると思います。</p> <p>その中でもやはり作りやすい品種であったり、他の農作物と比べて甘みが強い品種、その両方を持つ品種など様々な品種が作られてきましたし、ただ畑に農作物を植えてもらっているということだけではなく、水耕栽培などの様々な栽培方法、あまり人の目に見えない部分で大きく進歩してきたのではないかと思います。</p> <p>その中でもやはり近年多くの人の目に付くようになったのが、スマート化だと思っております。</p> <p>農業の作業を知らない多くの方は、やはりクワもって土を耕したり、草刈りを自分の手で行ったり、昔ながらのその姿が、皆さんやっぱり農業を詳しく知らない人っていうと、やっぱりそういうイメージを持たれる方が多いと思います。</p> <p>私も農業に興味を持つ以前はそういうイメージが強かったですし、力仕事ということであったり、比較的汚れるような仕事っていうイメージが強くなりました。</p> <p>自分自身の経験やその大学での体験を通してというのは間違いではなく、むしろ正解に近い部分もあると思います。</p> <p>近年、ICTやAIロボットを利用した、その後自分が農作物を作る立場になってみて、そういうのはとても喜ばしいことで農業イコール大変な仕事っていうイメージが変わるものになってくると思うんですけども、消費者側からすると、どう思っているのかなというのを考えるようになりました。</p> <p>例えばなんですけれども、やはりドローンが薬剤散布しているところを見て、IT・AI情報などの農業に興味関心を持たれている方は、一目で見てドローンから薬剤散布が行われているっていうことを考えることができると思うんですけども、それだけ知識のない方からしてみたら、自分たちに馴染みのない機械が、全く何を散布しているのかわからないっていうふうに考えられるようになってしまっているのかなと思います。</p> <p>ロボット等がその自分たちが元々先ほどやっていた作業を肩代わりしてくれている生産者側からしてみるとやはりそれが、スマート化とかで、自分たちの仕事量が減るとい</p>
----	-------------------	--

		<p>とで、喜ばれることではあるんですけども、消費者側からしてみれば、そういう不安感も言えないものになってきているのではないかなと思いました。</p> <p>生産者側に理解していただくことが重要であると思うんですけども、やっぱり消費者側にも理解していただかないと、技術の開発やスマート化が先に進んでいかないのではないかなと思いました。</p> <p>科学的な根拠を示しつつ、ブラックボックスではないことを説明していくべきではないかなと思いました。</p> <p>いろいろ資料を見て、様々な取り組みが行われていることや、現在提案経営活動が行われている点についてということができたんですけども、やはりスマート化に限らず、農林水産業に必要なことになってくるのは、消費者の理解を深めていくことであると私は思います。</p> <p>一学生での考えではありますが、御検討していただけるとありがたいです。</p>
18	中日新聞東海本社 鎮西報道部長	<p>いただいた資料の中でも、コロナの影響を受けた指標というのがありますけれども、この3年間をこのコロナの中で、やるべきことがやれないということが沢山あったわけです。</p> <p>一方で生まれたのが、先ほどからいろいろテレワークですとか、そういった新しい働き方みたいな我々新聞記者からすると、直接会って雑談をしながら、やってきた身からすると、テレワークというのはどうかなと思うんですけども、その業種や分野によってはそういったものが非常にそれが効果を発揮する場合がありますし、そこを生かして地域作りにも繋げていけたらというのがこれからはなかったかなと思います。</p> <p>と申しますのも我々、中日新聞社で毎年年末に西部地域の市町の首長さんたちも集まっていたいて、皆さんにお世話になりながら開催してもらってるんですけども、昨年22回目がテーマにしたのがスタートアップ支援と、地域連携というものでした。</p> <p>短い間でしたので少しずつのご意見でしたけれども、浜松市長を中心にしてですね、それぞれの市町の取り組みで、浜松市は首都圏などから10数社も浜松に拠点を設けているとかですね、他のご興味あるかもしれません、牧之原市なんかでチャレンジビジネスコンテストみたいなことをやったところ、97社から応募があって、その中から絞り込んで、地域の中で拠点作りを進めていきたいと。</p> <p>これは何が大きいのか、結局スタートアップ支援ってのは別にその企業だけを支援するものではもちろんなくて、そんな空き家対策であったりとか人口減少対策であったりとか、そういったものに結局は広がりを持っていく政策なものですから、それぞれが首長さん、あるいは市町が一生懸命取り組んでるとというのが伝わりました。</p>

		<p>それと同時にそれを地域連携を進めるっていうことがやっぱり重要だということも意識した話で、それぞれ若い首長さんたちも多い今、西部地域ですので、いろんな考え方を持ってる中で、市町事業を点でやっても、なかなか業務上もしくは流通みたいなことも含めて、ちょっとした広域で点だけではなくて西部地域という面でやっていくことが重要じゃないかっていうことも意見としてあります。市町事業の点、それを行う県の力もあるかもしれませんが、そういったところに県の連携でスタートアップ支援地域作りっていうことが行っていけたらいいんじゃないかということをおもいました。</p> <p>それと同時に今回大河ドラマという話をちょっと聞きましたけど、我々も紙面で家康のことを取り上げさせていただいて、あの商工会議所さんなんかのお話も経済の話もちょっととりあえずなんですけれども、やっぱり遠州を盛り上げていこうということでやってる中でそれもやっぱり地域の繋がりということと、交流人口を増やすっていうことは、移住に繋がる関係、足を運んでもらってこの地を選んでもらうみたいなことに繋がると思いますんで、その辺の市の地域循環、それを繋ぐ県という形で、やっていただけたらいいかなと。</p> <p>またそれを我々はオールドメディアではありますけれども、力を入れていきたいなというふうに思いますので、よろしくお願いたします。</p>
19	浜松市 石坂企画調整部長 (中村企画課長)	<p>人口減少、非常に危機感をもって見ておまして、特に自然動態の影響が非常に大きくなっていると感じております。</p> <p>先ほども浜松商工会議所の山畑副会頭からもお話がありましたが、第2子の出生数について、静岡県は減少が非常に大きいということに、衝撃を持ってお話を聞いたところです。国の方では、総理が異次元の少子化対策をされるということで非常にその部分に関しては期待をしているところではあるけれども、出生数、出生率の改善というのは、国全体で取り組んでいかないと一部の地域だけで取り組んでも一時のもので終わってしまうというところがあります。</p> <p>私どもはそういった形で考えているけれども、ただ全国平均と比べて静岡県がこれだけ低いということを、下がったという何か要因があるとすれば、そのあたりを共有していただければありがたいと思いました。</p>
20	湖西市 小林企画部長 (馬淵企画課長)	<p>静岡県が一番西側ということで、東は政令指定都市の浜松市と中核市の豊橋市にはさまれて移住・定住というか人口減少についてはですね、苦戦をしてるところでございます。</p> <p>優良な企業はたくさんあるんですけども、どうしても企業社員の居住地の内訳を見てみると、市内に住む割合が約3割ぐらいで、浜松が3割、豊橋が3割、残りの1割はその他</p>

		<p>から通っていただいているというのはどこの企業の面も同じぐらいの割合の中で、やはり豊橋から移住で湖西市に住んでもらうってところの視点については非常に大事になってくるわけなんです。</p> <p>県の視点は関東よりですが中京圏も、重要ではないかと今回の事業評価を確認させて頂くと改めて感じたところでございます。</p> <p>先週、東三河懇話会ということで、東三河の8市町も参加した懇話会に湖西市もさせていただいたんですが、静岡県との県境にある豊橋市の工業団地が全部完売されたというような情報もをいただいたところでもあります。今回、豊橋市は働き世帯、子育てしやすいまちの全国ランキングで3位というところでもございます。また豊川市には2023年春には志都呂のイオンのような大きなショッピングセンターが開設するそうので、現在、志都呂のイオンの方には「豊橋」ナンバーがたくさん来てるところではありますが、この流れは少し変わるんだろうか懸念するところで、そういった経済の流れが大きく変わることもありますので、今後ちょっと注意していかなきゃいけない。</p> <p>そういった隣接した市と移住定住施策に取組には、湖西市だけで魅力を発信していくことは、厳しい状況であることから、静岡県としても東三河との連携を意識して頂ければと思います。</p>
21	<p>磐田市 真壁企画部長 (伊藤政策推進課長)</p>	<p>人口減少については、当市も危惧しているところで、県の傾向とほぼ同じような、若い女性が少なくなっているという状況にあり、毎月人口が少しずつ減っていますが、横ばいに近い状態で今入れるのは、日本人は減っていますが、外国人が入ってきてくれていて、維持しているという状態です。</p> <p>若い子育て世代に選んでもらえるとか、外国人にも選んでもらって、一緒に住んで暮らしていけるような地域を目指していき、まちの活力を維持していきたいと思っていますところなんです。</p> <p>若い世代に選んでもらえるという意味では、安心も必要だと思いますし、先ほどご意見もありましたが、活力があるとか、わくわく感があるということも必要だと思いますし、便利さというのも必要だと思います。</p> <p>便利さということでは、DXをどうやって活用していくかは県と一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p>県の政策をご説明いただいて、少子化については、非常に幅広く色々な策を打っていただき、今後の予定も御説明いただき、よくわかりました。</p> <p>県の政策には市と一緒に進めていくことが大事になると思いますし、かつ市町は財源も限られていますから、県とは別にターゲットを絞って、市町の独自色を出した施策を打っていかなくてはいけないということを県がこれだけ幅広くやっていただけるのであれば、必要かなと思いました。</p>

		どこにターゲットを絞っていいかということの根拠に乏しくて、政策立案力が不足してるのかなとも思っていますので、「EBPM」としきりに言われるようになってきましたが、データなどからしっかり根拠を導き出して、ターゲットを絞って、そこに将来税金を投入して事業を行っていくことを考えていきたいと改めて思いました。
22	掛川市 平松企画政策部長 (深田企画政策課長)	皆さんからもご意見がある少子化であるとか、人口減少話がございいます。 人口が減っているというような全国的な流れの中で、持続可能なまち、あるいは自治体経営というものをどうしていけばいいのかと、課題として捉えております。 10年後20年後に、どうなっているのかというところを描きながら、政策を打っていくとなりますと、1市町だけでやることは限られております。 自分のだけが、生き残ればいいのかというような状況でもないかと思っておりますので、ぜひ県を中心として、各市町が連携をさせていただきながら、広域的な視点でいろいろな課題解決に取り組んでいくことが重要であると考えております。最近では共創という言葉も言われておりますけれども、行政だけではなくて、企業の方々とも一緒になって課題解決に向けて取り組み、連携させていただきたいと感じました。 県の方もいろいろな施策をしていただいているので一緒になって、取り組んで行きたいと思っております。
23	袋井市 大河原理事兼企画部長 (草信企画室次長)	移住のところの話で現場からの意見ということで、簡単に述べさせていただきたいと思っております。 西部地域におきましても、県中心に、チーム西部ということで、移住の取り組みをしていただいているところでございます。我々としましても、次年度に移住のサイトをようやく立ち上げまして、本格的に取り組んでいく段階にございます。各市町で、それぞれ移住の施策は取り組んでいるところではありますが、やはりどうしても静岡県といえますと、東部、伊豆の方がですね、首都圏の方からすると、イメージとしてございますので、やっぱりこの西部のまちということになりますと、単独でそれぞれが頑張ってもしんどいところもあります。西部地域という枠組みでですね、推進する必要があるかと思っております。 それぞれの市町を一つに統一することは難しいかもしれませぬけれども、西部というくくりの中でうまくPR促進ができますように取り組んでいただけると大変ありがたいなと思っております。
24	御前崎市 鈴木総務部長 (清水企画政策課長)	総合戦略の中で、人口減少の話が当初ありましたが、人口増に果たす女性の役割に非常に大きな期待をするところがございます。 それこそ女性に過度の負担や負荷をかけるものではありませんが、女性が元々持っている能力や可能性というのは非常に高いと思っています。

		<p>そうは言っても、現実問題として様々な場面で女性の管理職やリーダー、役員が少ないというのは現実でございます。</p> <p>今日のこの会議におきましても、女性が鈴木様1人で女性の学生が2人という状況は、現実だと思っております。なかなか簡単に行かないということは承知してはありますが、工夫をしていただく中で、女性の声をなるべく丁寧に聞く、そういったところから、何かヒントが得られるのではないかとこのように思います。</p> <p>特に女性活躍については男女共同参画課が努力をされているかとは思いますが、全庁的な対応として全ての部署がそういった考えのもとにやっていく、市町も、民間企業さんも当然そういった形で女性の声を拾い上げていくところにヒントがあります。ぜひそういった形で検討していただければ、市町の総合戦略の参考にさせていただきたいと思っております。</p>
25	<p>菊川市 勝浦企画財政部長 (田中企画政策課長)</p>	<p>国のデジタル田園都市国家構想総合戦略案の全体像が示されまして、これまでのまち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改定して、2023年度から5年間の新たな総合戦略を策定するというので、県の方でも今後の地方版総合戦略を改定していくというような説明が先ほどあったと思います。</p> <p>各市町でも総合戦略の改定という、国の総合戦略の改定に合わせてやっていかなきゃいけないこととなります。</p> <p>県の計画とも整合性を図っていく必要もあるだろうし、スケジュールであるとか、どんなふうに改定してくるか、菊川市の場合、来年度から総合計画の見直しもありますから、セットでまた戦略も考えていく必要があります。</p> <p>県からも、情報提供であるとか、ご指導の方をお願いしたいと思っております。</p>
26	<p>森町 佐藤企画財政課長</p>	<p>森町の人口の推移につきましては、他の市町と同様でありまして、深刻な状況にある。社人研の推計を、なかなか上回らないという状況が続いています。</p> <p>そういった中で、原因をいろいろ考えてるんですけども、一つはやはり結婚を機に転出するというのが非常に多い状況があると、そういったところも、多分ほかの市町と同様ではないのかなと考えているところです。</p> <p>本町につきましては、戦略の方でも書かせていただいておりますけども、遠州の小京都という言葉キーワードにまちづくりをしていこうということで、町内にある様々な文化的・歴史的な建造物をリノベーションしながらまちなか再生を図っていく。</p> <p>それが森町ならではの進め方ということで、令和4年度から計画の策定に入っていて、令和5年度以降、具体的に事業化をしていくと、そういった状況でございます。</p>

		<p>それからDXの関係ですけども、確かに行政側の環境整備は進んでいて、例えばコロナ対策であったりとか災害の対策があったりとか、そういったことで行政も多分、環境整備という意味では、進んでいると思います。今日資料いただいたところも、福祉であるとか農業だとか、学校とか企業とかそういったところの環境整備等の政策というのは非常に充実をされている。</p> <p>これは県というより市町の課題だと思うんですけども、自治会活動とか町内会、そういったものに対してのDXってのが果たして進んでいくかどうかというところは、課題かなというふうに思っていて、例えば今年の台風15号でもですね、やはり自主防災の果たす役割というのは、再確認されたところだと思います。自主防だけに限らないんですけども、自治会活動であるとか町内会活動、そういったところの視点っていうのも、これから大切になっていくのではないのかなと感じました。</p>
--	--	---